

使命感が



運命を

対談

国立研究開発法人
理化学研究所網膜再生医療
研究開発プロジェクト
プロジェクトリーダー／眼科医
高橋政代

たかはし・まさよ——昭和36年大阪府生まれ。京都大学医学部卒業、京都大学医学部付属病院での勤務を経て、平成7年アメリカ・カンザス州に留学。帰国後、眼科医として患者と向き合いながら、京都大学医学部付属病院探索医療センター助教、独立行政法人理化学研究所と所属を替え、最先端医療の研究に取り組む。

—— 思いと志を
同じくする二人

高橋 きょうは対談ということですが、いつものように「ナミねえ」と呼ばせていただきます（笑）。

竹中 急に「竹中さん」って呼ばれてもね（笑）。私も「政代さん」でやらせてもらいます。

私たちが初めて出逢ったのは確か二〇一六年、神戸市立医療センター中央市民病院の倫理委員会でしたよね。政代さんがiPS細胞を使った網膜の再生医療について発表しに来られて。

高橋 ええ、そうでした。

竹中 その時、政代さんはいかにも研究者という感じで発表をされていたから、「ちょっと飲みに行きませんか？」とか言っただけじゃない人なんだと思いました（笑）。

高橋 それはそうです。緊張しますもの、倫理委員会の発表は。

竹中 その次に会ったのは……。

高橋 ナミねえも知っている、福祉行政の関係者の方に、「ぜひ会わせたい人がいるから」と誘われて参加した飲み会の席ですね。その飲み会に行ったら、「あれ、あの髪の毛の人はどこかで会ったことが